

令和 9 年度

重要 要望書

さあ、
恐竜の
まちへ。

勝山市



令和 9 年度 重要要望項目一覧

一般国道 157 号勝山市～大野市間の 4 車線化について	…1
除雪体制の充実について	…2
大野油坂道路の早期完成・開通について	…3
奥越地区と坂井地区を結ぶ交通軸の整備について	…4
国道・県道等の整備について	…6
河川災害箇所河川の河川局改良工事の早期完成について	…11
広域連携の地域インフラ群再生戦略マネジメント (群マネ) の推進について	…14
砂防事業の推進について	…15
河川の伐木および浚渫について	…16
道路整備に係る予算確保について	…17
デジタル地域通貨「ふくいはいコイン」の 活用支援について	…18
中京圏での誘客プロモーションと 受入体制の整備に係る支援について	…19



■ 福井県子ども医療費助成事業の拡充について	…20
■ こどもの遊び場整備事業の発展について	…21
■ 奥越の医療体制の維持について	…22
■ 中山間営農への支援について	…23
■ 猟銃のための射撃場の新設について	…24
■ 小中学校における外国語指導助手の配置拡充について	…25
■ 恐竜のまちの推進について	…26
■ 県立大学恐竜学部と市立勝山中学校との連携について	…27
■ 文化財の調査・整備・活用・修理への支援について	…28





〔土木部〕

一般国道157号勝山市～大野市間の 4車線化について②

<現状>

一般国道157号は当市と大野市をつなぐ交通基盤であり、広域的な産業や観光振興を支える重要な役割を担う幹線道路です。

<課題>

勝山市平泉寺町大渡～大野市南新在家間の4車線化が未完了となっており、通勤時間帯などに慢性的な渋滞が発生しているなど、早期の4車線化が求められています。



<要望>

一般国道157号勝山市（平泉寺町大渡）～大野市（南新在家）間の道路改良（大渡高架橋、下荒井橋、下荒井トンネル）を促進し、早期の4車線化を図ること。

〔土木部〕

除雪体制の充実について②

<現状>

大雪時における市民の安全や日常生活、経済活動を維持するためには、幹線道路および生活道路の円滑かつ迅速な交通確保が極めて重要です。



<課題>

除雪車運転手の高齢化および担い手不足が進んでおり、人員を確保し現状の除雪体制を維持することが困難になることが予想されます。冬期の住民の生活環境を守るためにも、持続可能な除雪体制の確立が不可欠です。



<要望>

- (1) 積雪時における学校周辺の除雪の早期実施に努めること。
- (2) 除雪にかかる最低限の人件費を保障する最低保障制度の確立について、国に対し強く働きかけること。
- (3) 除雪費および豪雪による被害対策に要する経費に係る財政措置を拡充するとともに、雪寒指定道路以外であっても除雪経費に係る財政措置について、国に対し強く働きかけること。
- (4) 大雪時においても道路交通を確保するためスクラム除雪等の実施に向けた連携体制を図ること。 





〔土木部〕

大野油坂道路の早期完成・開通について②

＜現状＞

中部縦貫自動車道（大野油坂道路）は、福井県の東の玄関口となる極めて重要な路線です。大野油坂道路が整備されれば、中京・関東圏との往来に掛かる時間が劇的に短縮され、広域的な交流や地域連携が強まり、観光や地域経済の活性化に大きな効果が期待されます。さらに、災害時には緊急搬送や物資輸送を支える命の道（代替ルート）として地域を守る重要な役割も担っています。

＜課題＞

全線開通を確実なものとするためには、国による継続的な予算措置が不可欠です。



＜要望＞

令和11年春に予定されている九頭竜IC～油坂出入口（仮称）間の一日も早い開通について、国に対し強く働きかけること。





〔土木部〕

奥越地区と坂井地区を結ぶ交通軸の整備について^新

<現状>

都市計画道路 東縦貫線は九頭竜川右岸沿いに勝山市内を貫く計画道路幅員 22mの路線であり、現在、勝山市と大野市境にて実施されている一般国道 157 号の 4 車線化の整備が完了することで全線改良済となります。

しかしながら、本都市計画道路の起点である勝山市荒土町伊波地先より以西の一般国道 416 号および、主要地方道勝山丸岡線は片側 1 車線の 2 車線での整備となっています。

<課題>

今後の中部縦貫自動車道大野油坂道路や福井港丸岡インター連絡道路などの完成など、福井県内の幹線道路網の整備による需要の増加を見据え、福井県内の道路交通ネットワークの充足により防災・観光・物流などそれぞれの分野において機能を更に充実させるため、奥越地区と坂井地区を結ぶ路線を強化した軸となる道路の整備が求められます。



<要望>

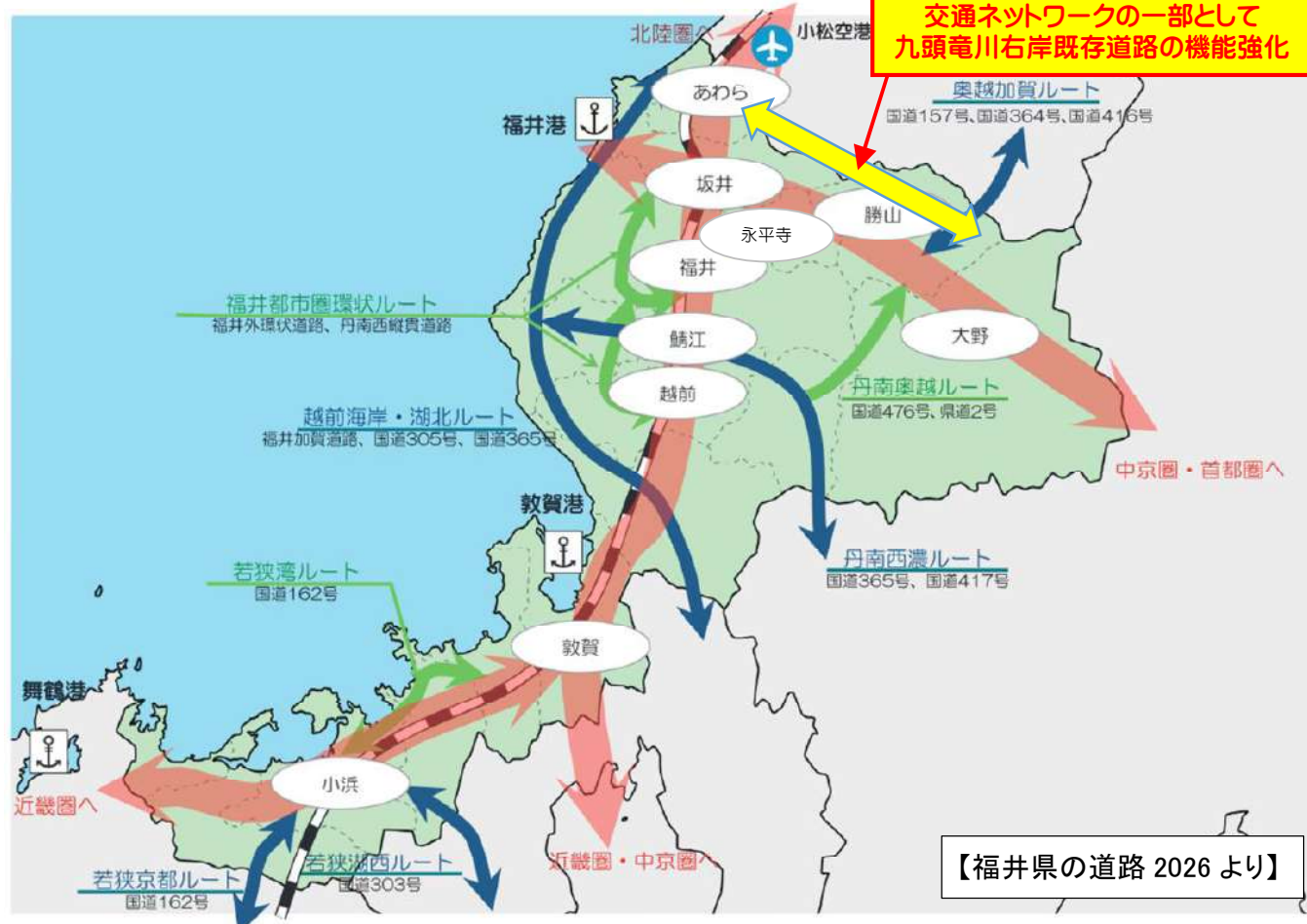
福井港と中京圏・首都圏を結ぶ交通ネットワークの一部として、一般国道 416 号（勝山市荒土町伊波～北郷町坂東島）及び、主要地方道勝山丸岡線（勝山市北郷町坂東島）の更なる道路機能の強化に向けた取り組みを推進すること。





地域を結ぶ交通ネットワーク イメージ図

福井港と中京圏・首都圏を結ぶ
交通ネットワークの一部として
九頭竜川右岸既存道路の機能強化





〔土木部〕

国道・県道等の整備について②

<現状>

市民生活や経済活動を支える地域の道路整備は極めて重要であり、国道や県道の整備については、着実な進捗が図られているところです。

<課題>

通勤や通学をはじめとする日々の生活において、利便性が高く、災害時にも機能する安全・安心な交通網や、住環境といった社会基盤を整備することは、地域の発展に不可欠であり、継続的な予算措置が必要です。



<要望>

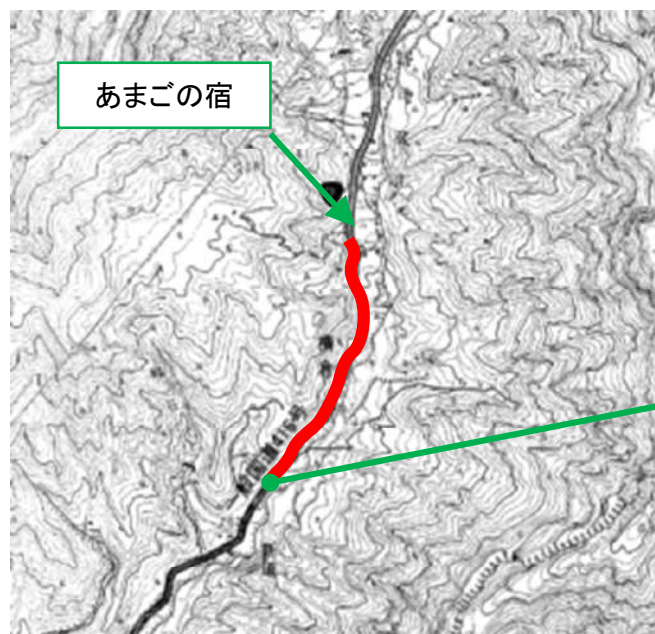
以下の国道・県道等の整備を引き続き推進すること。

- (1) 一般国道416号改良促進（野向町横倉）
- (2) 主要地方道篠尾勝山線交通不能区間解消
（福井市皿谷町～勝山市鹿谷町北西俣間）
- (3) 主要地方道篠尾勝山線歩道整備（鹿谷町本郷）
- (4) 一般県道藤巻下荒井線歩道整備
（遅羽町比島～鹿谷町保田間）
- (5) 一般県道栃神谷鳴鹿森田線歩道整備（北郷町東野）





(1) 一般国道 416 号改良促進（野向町横倉）



あまごの宿

新道集落～あまごの宿付近

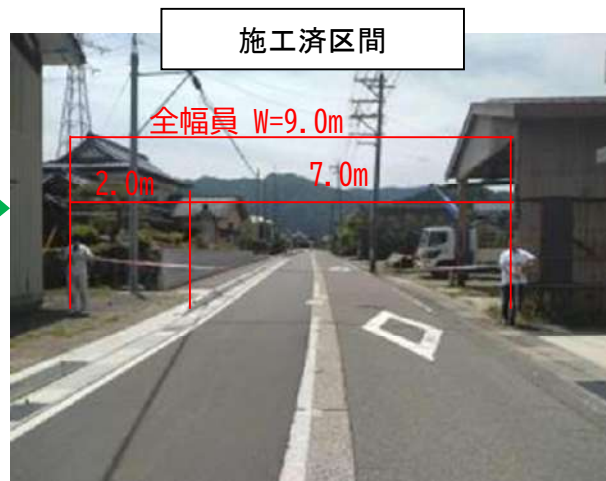


新道～あまごの宿付近約 550m区間の拡幅改良

(2) 主要地方道篠尾勝山線（交通不能区間解消）



(3) 主要地方道篠尾勝山線歩道整備（鹿谷町本郷）





(4) 一般県道藤巻下荒井線歩道整備(遅羽町比島～鹿谷町保田間)

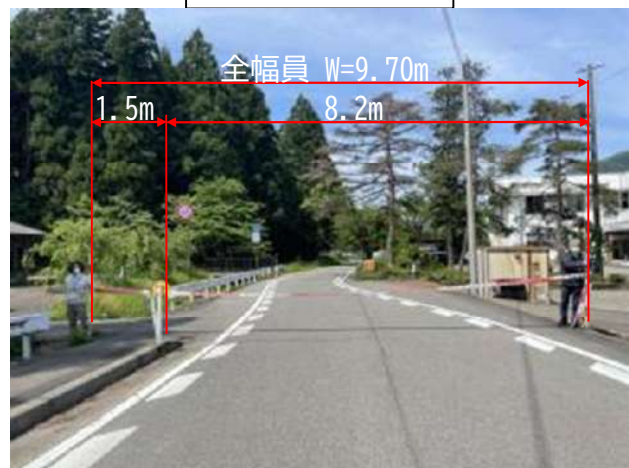
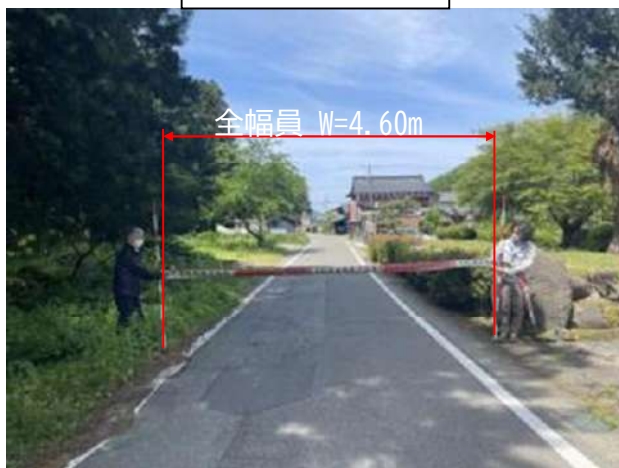


(5) 一般県道栃神谷鳴鹿森田線歩道整備（北郷町東野）



未改良区間

改良済区間





〔土木部〕

河川災害箇所河川局改良工事の 早期完成について②

<現状>

勝山市では、令和4年と令和5年の2年連続で集中豪雨により土砂災害や河川の氾濫などの大きな被害を受けました。被災現場の多くは迅速な復旧作業が行われ、工事が完了しています。

<課題>

集中豪雨による被害の発生を抑制するため、未改良箇所の河川改良を推進するとともに、早期完了が求められます。



<要望>

以下の河川局改良工事の早期完了に努めること。

- (1) 一級河川畝見川 河川局改良事業（北郷町東野～新町）
- (2) 一級河川暮見川 河川局改良事業（滝波町1丁目）







(2) 一級河川暮見川 河川局部改良事業 (滝波町 1 丁目)

位置図・平面図



写真・横断面

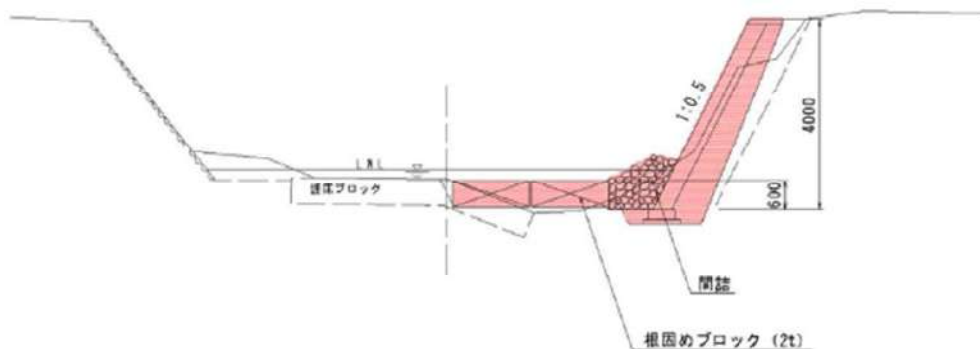


R7.8撮影



R7.8撮影

標準横断面図





〔土木部〕

広域連携の地域インフラ群再生戦略マネジメント (群マネ)の推進について^新

<現状>

国交省では、自治体の技術系職員に限られる中でも、的確なインフラメンテナンスを確保するため、複数自治体のインフラを「群」として捉え、効率的・効果的にマネジメントしていく「地域インフラ群再生戦略マネジメント（群マネ）」を推進しています。

<課題>

インフラの老朽化と技術職員の不足が同時に進行しており、自治体のみならず事業者においても、近い将来、インフラを守っていけないという不安が高まりつつあります。



<要望>

県と市の連携・協働を図り、県が市の橋梁やトンネル、舗装の点検、補修設計、補修工事等で連携できる体制を推進すること。





〔土木部〕

砂防事業の推進について②

<現状>

勝山市では、令和4年と令和5年の2年連続で集中豪雨により土砂災害や河川の氾濫などの大きな被害を受けました。被災現場の多くは迅速な復旧作業が行われ、工事が完了しています。

<課題>

集中豪雨や地震等による突発的な土砂災害に対応するためには、日頃からの維持管理はもとより、予防的な設備への投資が不可欠です。



<要望>

以下の砂防施設の整備を引き続き推進すること。

- ・西谷川（北郷町新町）



〔土木部〕

河川の伐木および浚渫について②

<現状>

大型台風時や豪雨発生時には、一級河川に雨水が集約されることで増水が頻発しています。

<課題>

河川の増水による洪水の発生や、河川敷の立木が流出することで、橋脚や下流域への被害が拡大する恐れがあります。



<要望>

一級河川の継続的かつ計画的な伐木および浚渫を行うこと。

(1) 伐木箇所

- ①女神川（若猪野）
- ②九頭竜川（北郷町西妙金島）
- その他、浚渫に合わせ随時実施

(2) 浚渫箇所

- ①淀川（下高島～毛屋町）
- ②鹿谷川（鹿谷町本郷～杉俣、矢戸口）
- ③温川（荒土町伊波～松田）





〔土木部〕

道路整備に係る予算確保について^⑧

<現状>

市民生活や経済活動を支える地域の道路整備は極めて重要であり、着実な整備が進められているところです。

<課題>

道路整備を計画的に実施できるよう、必要な財源の長期安定的な確保が極めて重要です。

<要望>

道路整備を着実に推進できるよう国に対し予算確保を強く働きかけること。

〔未来創造部〕

デジタル地域通貨「ふくいハピコイン」の 活用支援について

＜現状＞

デジタル地域通貨「ふくいハピコイン」の運営経費は、福井県から支払われる運営事業委託料のほか、「ふくいハピコイン」を活用する市町等から支払われる料金により賄われています。その料金体系は、市町が行う事業規模や内容により変動するものと、規模によらず一律に負担するものとがあります。



＜課題＞

事業規模によらず一律に負担する料金部分は、当市のように人口が少なく事業規模が小さくなる自治体においては、他市に比べて割高となり費用対効果が低くなることから、「ふくいハピコイン」の積極的な活用を図ることが困難な状況となっています。

＜要望＞

「ふくいハピコイン」を事業に活用する際に必要となる料金体系のうち一律に負担する部分を見直し、自治体および事業の規模に応じた公平な負担となるよう運営事業者に働きかけを行うこと。





〔交流文化部〕

中京圏での誘客プロモーションと 受入体制の整備に係る支援について^②

＜現状＞

令和11年春に予定されている中部縦貫自動車道の福井県内全線開通により、中京・関東圏とのアクセス時間が劇的に短縮され、観光や地域経済の活性化に大きな効果が期待されています。

勝山市においても、福井県立恐竜博物館を観光誘客の核に据え、市内観光地への周遊促進と宿泊施設の誘致を進めているところです。

＜課題＞

各市町が個別にプロモーションを実施するだけでは、中京・関東圏との繋がりを最大限に活かすことができません。新たな人や物の流れを地域全体へ「面的」に広げるための対策が不可欠です。



＜要望＞

- (1) 県が主導して、中京圏においても北陸新幹線延伸時と同様に、積極的な誘客プロモーションを講じること。
- (2) 誘導看板などのハード面の整備に対して、財政面での支援策を講じること。^③





〔健康福祉部〕

福井県子ども医療費助成事業の拡充について^②

<現状>

勝山市では、子どもの疾病の早期発見と治療等のため、18歳に到達する年度末までにかかる医療費について、令和2年9月から医療機関等の窓口での自己負担を無くしています。

現在、この18歳までの医療費無償化は、本市を含む県内16市町がそれぞれ独自に実施している状況です。

<課題>

子どもたちが安心して医療を受けられる子育てしやすい環境を持続させるためには、国や県による財政的・制度的な支援が不可欠です。

<要望>

福井県子ども医療費助成事業の助成対象の年齢を18歳に到達する年度末まで拡大すること。

<令和7年度勝山市子ども医療費助成決算額の内訳>

(単位：千円)

区分	決算額	うち県補助金	うち一般財源
就 学 前	22,380	11,190	11,190
小1～小3	13,194	5,547	7,647
小4～小6	13,029	5,434	7,595
中 学 生	13,341	5,728	7,613
高 校 生	15,127		15,127
合 計	77,071	27,899	49,172





〔健康福祉部〕

こどもの遊び場整備事業の発展について^新

＜現状＞

勝山市では現在、県の「こどもの遊び場整備事業補助金」を活用して勝山市教育会館の改修を予定しており、中央公園との一体的な空間整備を進めています。



【 1 階イメージ図】

＜課題＞

こどもの遊び場が長く愛され、魅力的な場所として持続するためには、整備後も多様な遊びや体験の提供ができるよう、継続的な機能向上が求められます。



【 2 階イメージ図】

＜要望＞

「こどもの遊び場整備事業」を発展させ、機能向上に係るハード事業およびソフト事業に対する財政支援を講じること。



〔健康福祉部〕

奥越の医療体制の維持について **新**

<現状>

勝山市においては、JCHO福井勝山総合病院が奥越二次医療圏の中核を担う医療機関となっています。



JCHO 福井勝山総合病院

国では、将来の人口減少や高齢化を見据え、地域全体の包括的な医療体制の再設計を目的に、新たな地域医療構想の策定に向けた検討が始まりました。県においても、医療構想区域の点検・見直しや必要病床数の推計などを実施し、県内の医療体制全体の方角性を示す予定となっています。

<課題>

勝山市は人口減少や高齢化が進んでおり、豪雪地域および山間地域という地域特性があり、医療アクセスの実情を踏まえると、福井勝山総合病院を奥越の地域医療および救急医療の拠点として維持していく必要があります。市民が安心して必要な医療を受けられる体制が求められます。

<要望>

新地域医療構想の策定にあたっては、奥越の地域特性を踏まえた地域医療提供体制や救急医療体制の維持および医療人材の確保に十分配慮した柔軟な構想とすること。





〔農林水産部〕

中山間営農への支援について^新

<現状>

勝山市では高齢化が進行し、地域農業の維持が喫緊の課題となっています。特に中山間地域においては、営農条件が不利であることに加え、農業機械の導入・更新に係る負担が大きく、担い手の経営継続に大きな影響を及ぼしています。



農村部において地域農業が維持できなくなると、地域コミュニティの存続そのものに直結しかねない状況です。

<課題>

中山間地域は経営規模の拡大や機械の大型化が困難な条件不利地であり、農業機械の価格が高騰している現状において、農業機械の導入・更新にかかる支援が必要です。



<要望>

- (1) 農業機械購入にも対応している、県単独事業「中山間総合対策支援事業」等の補助事業について十分な予算を確保すること。
- (2) 同事業について、担い手支援対策事業の要件にある条件不利地について、中山間地域等直接支払制度に即して1/100までの傾斜を対象とするよう見直しを行うこと。



〔エネルギー環境部〕

猟銃のための射撃場の新設について^新

<現状>

近年、クマの出没や被害が急増する中、緊急銃猟や調整捕獲等において、安全かつ確実な銃猟技術の重要性が一段と高まっています。

<課題>

緊急銃猟等で必要となる大口徑銃（スラッグ弾）の射撃技能維持には多くの経験が必要であるにも関わらず、現在、福井県内には大口徑銃の使用可能な射撃場がありません。このため、銃所持者は富山県や兵庫県などの県外施設まで出向いて練習を行っているところであり、経済的・時間的負担が担い手の育成や技術向上に大きな支障となっています。



<要望>

銃を扱う者の技術向上および新規狩猟者の確保のため、福井県立クレ射撃場に大口徑銃の射撃練習ができる射撃場を新たに設置すること。





〔教育庁〕

小中学校における 外国語指導助手の配置拡充について **新**

＜現状＞

グローバル人材の育成に向け、知的好奇心が旺盛な児童生徒の時期にネイティブスピーカーの生きた英語や異文化に触れることは、学習意欲の向上に極めて高い効果をもたらします。

中学校には県からALTが配置されますが、小学校では外国語が教科化されたにもかかわらず、各市町が単独でALTを配置しており、勝山市では令和8年度に3名のALTを配置しています。



＜課題＞

各市町が個別に小中学生への外国語学習に取り組むなか、県内における英語教育の環境に地域差が生じています。本県が目指す英語教育のさらなる推進に向け、児童生徒が「生きた英語」を学べる環境が求められます。



＜要望＞

小中学校において次の事項を推進するとともに、全国トップレベルの外国語教育に取り組むこと。

- (1) 中学校に加え小学校も含めて外国語指導助手（ALT）の配置を拡充すること。
- (2) 各市町がALTを受入れる際には、県ALTサポーターによる支援を行うこと。



〔教育庁〕

恐竜のまちの推進について **新**

<現状>

勝山市は、国内有数の恐竜化石の産出地であり、福井県立恐竜博物館や福井県立大学恐竜学部を擁する恐竜研究・教育の拠点となっています。

この環境を活かし、県内の小学5年生を対象とした「かつやま恐竜スクール」に加え、令和8年度からは全国の中高生を対象とする「恐竜ジュニアアカデミーin 勝山」を新たに開催しました。これらを通じて、勝山高校の地域みらい留学や福井県立大学恐竜学部へと繋がる教育ラインの構築を目指しています。



<課題>

初開催となる「恐竜ジュニアアカデミーin 勝山」への申込数は38名であったものの、そのうち市内・県内の中高生は8名にとどまりました。県内の中高生が本県の恐竜資源を活かして学び、郷土愛を深める機会は、将来的な県立大学恐竜学部などへの進学や、専門人材の育成に繋がります。そのためにも、子どもたちがより参加しやすい環境や条件を整えることが必要です。

<要望>

「恐竜ジュニアアカデミーin 勝山」について、令和8年度は県内の学校に通う生徒を対象に参加費の軽減策を講じていただいたところであるが、令和9年度においても同様の軽減策が講じられるよう、引き続き支援を行うこと。





〔教育庁〕

県立大学恐竜学部と市立勝山中学校との連携について

＜現状＞

令和9年4月に開校する勝山市立勝山中学校は、全国的にも事例が少ない県立高等学校の敷地内に市立中学校を設置する連携型中高一貫教育校としての歩みをスタートします。地方における今後の公立学校の在り方のモデルケースとして、中学校と高校が深く連携した、特色ある教育活動を円滑かつ本格的に進めていきます。

＜課題＞

恐竜を核とした継続的で高度な探究学習やふるさと学習を勝山市の特色ある教育活動として展開していくためには、福井県立大学恐竜学部と勝山高等学校の連携効果を、隣接する勝山中学校にも波及させることが必要です。



＜要望＞

勝山中学校と県立大学恐竜学部との連携協定締結などに配慮すること。



〔教育庁〕

文化財の調査・整備・活用・修理への支援について②

<現状>

文化財は、地域特性の理解や、独自性のあるまちづくりの推進に欠かせない存在です。また、住民が地域への誇りと愛着を深めることを契機として、歴史の薫り高い魅力的な地域社会の実現に寄与します。そのため、適切な保存とともに、多面的な活用を図ることが求められています。

<課題>

観光振興や学校教育等の各分野において文化財を活用するためには、その基盤となる継続した保存と調査研究が不可欠です。また、保存と調査研究には多くの時間と多額の費用が掛かることから、国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金（国）および国指定文化財保存修理等補助金（県）等の文化財保存・活用に係る支援が欠かせません。



<要望>

次の事項への予算拡充、要綱に基づく補助率の適用および補助上限額の撤廃を行うこと。

- （１）「中世宗教都市」として栄えた平泉寺の史跡保存活用計画策定や中長期的な調査・保存修理・活用の継続および支援。
- （２）江戸時代後期の庄屋屋敷である重要文化財旧木下家住宅の茅葺き屋根を中心とした定期的な修理。
- （３）市内遺跡発掘調査等の継続に向けた支援。



